

報告

看護師に求められる実践能力と 卒業時の到達目標の実態調査からみたカリキュラム評価 Curriculum evaluation based on a Survey on the Practical Competencies Required of Nurses and the Achievement Goals at Graduation

中山直子¹⁾*, 佐々木杏子¹⁾, 阿保真由美²⁾

1) 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科

2) 元神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科

Naoko Nakayama¹⁾, Kyoko Sasaki¹⁾, Mayumi Abo²⁾

1) Kanagawa University of Human services, Social Services, School of Nursing

2) Former-Kanagawa University of Human services,
Social Services, School of Nursing

抄 録

【目的】本看護学科では、2022年にカリキュラム改正を行った。そのカリキュラム評価の一環として、看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標について、実態を調査し今後の看護教育の充実に向けてカリキュラムの課題を検討する。

【方法】Web (Microsoft Forms) を利用した無記名自記式質問紙調査を各学年に実施した。調査項目は、厚生労働省が示している免許取得前に習得すべきもの及び到達すべき水準を示す「実践能力と到達目標」の73項目とした。

【結果】85名（回答率23.3%）の学生から回答を得た。I 群のヒューマンケアの基本的な能力の15項目のうち7項目で学年別の回答に差がなかったが、そのほかの66項目については、学年別の回答に有意差が見られた。

【結論】カリキュラム進行に従って、知識としてわかる、学内演習で実施できる、指導の下で実施できる、少しの助言で自立して実施できるというように、低学年からの学生の学修状況が明らかになった。今後は看護実践能力を高められるように最終的な学修目標である学生のコンピテンシーの獲得につながるよう本学のカリキュラムに反映させていくことが課題である。

キーワード：看護実践能力、到達状況、看護学生

Key Words：Nursing Practical Competence, Achievement, Nursing Student

I. はじめに

看護系大学は年々増加し、2023年には285大学302

著者連絡先：*中山直子

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科

E-mail：nakayama-px4@kuhs.ac.jp

(受付 2024. 8. 29 / 受理 2024. 12. 12)

課程となり、全国の大学1/3に看護系の学部・学科が設置されている¹⁾。看護系大学は、日進月歩で進歩する医療現場に対応できる高度な実践能力を備えた看護職の育成と、その質を保証することが求められている。近年は大学教育の質保証のために、教員が何を教授したかではなく、学生自身が何を学び得たか、自らの学習成果として得た能力を評価することが重視されてきている。

看護職が卒業時に習得すべき知識や技術については、文部科学省や厚生労働省で検討が重ねられてきた。文部科学省の委託を受けた一般社団法人日本看護系大学協議会は、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」、厚生労働省の看護基礎教育検討会は「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を示し、それぞれ改訂を重ねながら、看護系大学の教育課程の指針の一つとなっている。身につけた知識や技術の評価として、学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標^{2) 3)}、大学独自の教育目標⁴⁾を用いた報告があり、様々な指標を用いながら、教育評価の取り組みが行われている。

2020年に社会情勢や疾病構造の変化を踏まえた看護職養成を目指し、国家試験受験資格に関わる「保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則）」の一部が改正された。看護学科では2022年に、指定規則の改正項目と、本学の使命や特色を踏まえた教育目標、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをより反映したカリキュラム改正を行った。

新カリキュラム開始に際し、教育の質保証のために、継続的なカリキュラム評価の実施を決定した。評価項目は学部・学科ディプロマポリシーに掲げた能力とし、カリキュラムの評価や学修到達度を把握するため、それらを学生がどの程度身につけたかを自己評価で調査することとした。加えて、先の「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」によって、看護職としての到達度を把握することとした。これは、過去のカリキュラム評価で活用していることから選択した。

2021年は旧カリキュラムの2021年度卒業生への調査を実施し、2022年度以降はリアルタイムな到達度や過程を把握するため、在籍する4学年に調査を実施している。本稿では、2022年度の調査結果を報告する。

Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、看護学科の学生に対して行った「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」に対する学生の自己評価から、各目標に対する各学

年の達成度を明らかにし、今後の看護職教育の充実に向けてカリキュラムの課題を検討することである。

Ⅲ. 研究方法

本調査は、看護学科教務委員会のカリキュラム評価の一部として実施した。調査を実施するにあたり、カリキュラムワーキングメンバーでの打ち合わせや学科教務委員会で検討を行い、以下の通り実施した。

1. 対象者

2022年度在籍の看護学科1～4年生の365名を対象とした。

2. 調査方法

Microsoft Formsを利用した無記名Web調査を実施した。1・2年生は、2022年度の最終の講義科目の終了後に、調査への回答を依頼する二次元バーコード付きの依頼文（以下、依頼文）を配布した。3年生は、後期の臨地実習最終日のまとめの会で依頼文を配布した。4年生は、卒業研究発表会の際に依頼文を配布した。また、各学年の教育支援システム（manaba）にも掲示し、調査への協力を依頼した。

3. 調査内容

調査項目は、「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」73項目と基本属性（学年）とした。

卒業時到達度調査は、厚生労働省⁵⁾が示している免許取得前に習得すべきもの及び到達すべき水準を示す「実践能力と到達目標」によって、看護職としての到達度を把握するものである。実践能力と到達目標は、看護師に求められる実践能力として「Ⅰ. ヒューマンケアの基本的な能力」15項目、「Ⅱ. 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力」11項目、「Ⅲ. 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力」23項目、「Ⅳ. ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力」20項目、「Ⅴ. 専門職者として研鑽し続ける基本的能力」4項目の5群73項目とした。

卒業時の到達目標は、看護師課程の卒業時の実践能力と到達度評価のための項目であり、選択肢は、

「1. 知識としてわかる」「2. 学内演習で実施できる」「3. 指導の下で実施できる」「4. 少しの助言で自立して実施できる」であったが、今回は低学年にも実施することを踏まえ、「5. まだ学習していない」の選択肢を追加し5択とした。

4. 分析方法

基礎集計のほか、学年別の卒業時の到達度の回答に差があるかを確認するためにカイ二乗検定を実施した。

5. 倫理的な配慮

本調査は、看護学科教務委員会のカリキュラム評価の一環として実施した。調査の実施にあたり、ヒトを対象とする研究のため、「ヘルシンキ宣言」と「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施した。また、調査への回答は任意であること、個人情報収集しておらず学年別の集計であり個人は特定できないように配慮した。

IV. 結果

調査対象者365名のうち、調査に回答した85名（回答率23.3%）を分析対象とした。学年別の有効回答数は、1年生28名（30.8%）、2年生22名（24.2%）、3年生15名（17.2%）、4年生20名（20.8%）であった。回答の詳細は、表1～5の通りである。

1. 各学年の到達度の比較

各学年と卒業時の到達状況については、カイ二乗検定の結果、第Ⅰ群の7項目以外はすべての項目で学年ごとの回答に差がみられた。つまり、学年やカリキュラムの進行に従って、「指導の下で実施できる」「少しの助言で自立して実施できる」という回答が増加しており、実践能力として身につけていく状況が示された。

2. 各群の到達度の特徴

第Ⅰ群は基本的な能力に関する内容であり対象者プライバシーや個人情報の保護、価値観・習慣・信条などを1年生から学習しており、基本的な能力は理解している実態が示された（表1）。学年別の回

答に差がなかった項目は、「6. 自らの現在の能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求める」「7. 対象者のプライバシーや個人情報を保護する」「8. 対象者の価値観、生活習慣、習慣、信条などを尊重する」「10. 対象者の選択権、自己決定を尊重する」「11. 組織の倫理規定、行動規範に従って行動する」「12. 対象者と自分の境界を尊重しながら援助的関係を維持する」「13. 対人技法を用いて、対象者と援助的なコミュニケーションをとる」の7項目については、いずれも、低学年から「指導の下で実施できる」もしくは、「少しの助言で自立して実施できる」という回答が多くみられていた。

第Ⅱ群の根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力（表2）では、すべての項目に関して学年ごとの回答に有意差が見られた。1年生ほど「まだ学習していない」と回答しており、学年が上がると「学内演習で実施できる」という回答が増加していた。例えば、「22. 看護援助技術を対象者の状態に合わせて適切に実施する」では、1年生は「知識としてわかる」や「学内演習で実施できる」という回答が多く、2年生は「指導の下で実施できる」の回答が多く、4年生では「少しの助言で自立して実施できる」という回答が有意に多かった。

第Ⅲ群の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力（表3）についても第Ⅱ群と同様にすべての項目に関して学年ごとの回答に有意差が見られた。これは、低学年ではまだ学習していない内容が多く、カリキュラムの進行により学年が上がると「知識としてわかる」「学内演習で実施できる」などの回答が増加していることが示された。例えば、「30. 対象者及び家族に合わせて必要な保健指導を実施する」では、1年生では「まだ学習していない（51.9%）」の回答が多く、2年生では、「学内演習で実施できる（45.5%）」、3年生では、「指導の下で実施できる（66.7%）」、4年生になると「少しの助言で自立して実施できる（35.0%）」という回答であった。

第Ⅳ群のケア環境とチーム体制を理解し活用する能力（表4）は、第Ⅱ群・Ⅲ群と同様にすべての項目に関して学年ごとの回答に有意差が見られた。例えば、「63. 対象者に関するケアについての意思決定は、チームメンバーとともに行う」では、1年生

表1 I群：ヒューマンケアの基本的な能力

	まだ学習して いない	知識としてわ かる	学内演習で実 施できる	指導の下で実 施できる	少しの助言で 自立して実施 できる	合計	無回答	p値
1. 人体の構造と機能について理解する								
1年生	0(0%)	10(37.0%)	5(18.5%)	9(33.3%)	3(11.1%)	27	1	0.011
2年生	0(0%)	8(36.4%)	5(22.7%)	8(36.4%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	6(40.0%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	10(50.0%)	6(30.0%)	20	0	
2. 人の誕生から死までの生涯各期の成長、発達、加齢の特徴を理解する								
1年生	5(18.5%)	9(33.3%)	1(3.7%)	9(33.3%)	3(11.1%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	3(13.6%)	5(22.7%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	3(20.0%)	9(60.0%)	3(20.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	7(35.0%)	10(50.0%)	20	0	
3. 対象者を身体的、心理的、社会的、文化的側面から理解する								
1年生	0(0%)	10(37.0%)	5(18.5%)	9(33.3%)	3(11.1%)	27	1	0.006
2年生	0(0%)	4(18.2%)	1(4.5%)	11(50.0%)	6(27.3%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	5(33.3%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	1(5.0%)	6(30.0%)	11(55.0%)	20	0	
4. 実施する看護の根拠・目的・方法について相手にわかるように説明する								
1年生	0(0%)	5(18.5%)	8(29.6%)	8(29.6%)	6(22.2%)	27	1	0.010
2年生	0(0%)	1(4.5%)	9(40.9%)	10(45.5%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	3(20.0%)	9(60.0%)	3(20.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.3%)	9(47.4%)	9(47.4%)	19	1	
5. 自らの役割の範囲を認識し説明する								
1年生	0(0%)	6(22.2%)	9(33.3%)	8(29.6%)	4(14.8%)	27	1	0.008
2年生	0(0%)	2(9.1%)	8(36.4%)	9(40.9%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	9(60.0%)	3(20.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	2(10.0%)	7(35.0%)	11(55.0%)	20	0	
6. 自らの現在の能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求める								
1年生	0(0%)	4(14.8%)	4(14.8%)	11(40.7%)	8(29.6%)	27	1	0.179
2年生	0(0%)	1(4.5%)	2(9.1%)	7(31.8%)	12(54.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	5(33.3%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	7(35.0%)	13(65.0%)	20	0	
7. 対象者のプライバシーや個人情報を保護する								
1年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	27(100%)	27	1	0.074
2年生	0(0%)	0(0%)	2(9.1%)	1(4.5%)	19(86.4%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	3(20.0%)	11(73.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	19(95.0%)	20	0	
8. 対象者の価値観、生活習慣、習慣、信条などを尊重する								
1年生	0(0%)	6(22.2%)	5(18.5%)	7(25.9%)	9(33.3%)	27	1	0.120
2年生	0(0%)	1(4.5%)	2(9.1%)	8(36.4%)	11(50.0%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	5(33.3%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	0(0%)	7(35.0%)	12(60.0%)	20	0	
9. 対象者の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動することの重要性を理解する								
1年生	0(0%)	6(22.2%)	5(18.5%)	11(40.7%)	5(18.5%)	27	1	0.016
2年生	0(0%)	2(9.1%)	1(4.5%)	10(45.5%)	9(40.9%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	8(53.3%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	0(0%)	4(20.0%)	14(70.0%)	20	0	
10. 対象者の選択権、自己決定を尊重する								
1年生	1(3.8%)	4(15.4%)	3(11.5%)	8(30.8%)	10(38.5%)	26	2	0.387
2年生	0(0%)	1(4.5%)	3(13.6%)	8(36.4%)	10(45.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	9(60.0%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	1(5.0%)	5(25.0%)	13(65.0%)	20	0	
11. 組織の倫理規定、行動規範に従って行動する								
1年生	2(7.4%)	4(14.8%)	1(3.7%)	12(44.4%)	8(29.6%)	27	1	0.233
2年生	1(4.8%)	2(9.5%)	3(14.3%)	6(28.6%)	9(42.9%)	21	1	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	5(33.3%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(26.3%)	14(73.7%)	19	1	
12. 対象者と自分の境界を尊重しながら援助的関係を維持する								
1年生	0(0%)	6(22.2%)	3(11.1%)	14(51.9%)	4(14.8%)	27	1	0.102
2年生	0(0%)	2(9.1%)	4(18.2%)	7(31.8%)	9(40.9%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	7(46.7%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	2(10.0%)	8(40.0%)	10(50.0%)	20	0	
13. 対人技法を用いて、対象者と援助的なコミュニケーションをとる								
1年生	1(3.7%)	5(18.5%)	4(14.8%)	7(25.9%)	10(37.0%)	27	1	0.068
2年生	0(0%)	0(0%)	4(18.2%)	10(45.5%)	8(36.4%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	6(40.0%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	1(5.0%)	3(15.0%)	15(75.0%)	20	0	
14. 対象者に必要な情報を対象者に合わせた方法で提供する								
1年生	3(11.1%)	6(22.2%)	6(22.2%)	12(44.4%)	0(0%)	27	1	0.002
2年生	0(0%)	2(9.1%)	3(13.6%)	15(68.2%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	10(66.7%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	2(10.0%)	10(50.0%)	8(40.0%)	20	0	
15. 対象者からの質問・要請に誠実に対応する								
1年生	2(7.4%)	6(22.2%)	6(22.2%)	10(37.0%)	3(11.1%)	27	1	0.007
2年生	0(0%)	1(4.5%)	5(22.7%)	10(45.5%)	6(27.3%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	7(46.7%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	1(5.0%)	0(0%)	1(5.0%)	7(35.0%)	11(55.0%)	20	0	

χ² 二乗検定、P<0.05を有意差ありとした。無回答は欠損値として扱った。

表2 II群：根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力

	まだ学習して いない	知識としてわ かる	学内演習で実 施できる	指導の下で実 施できる	少しの助言で 自立して実施 できる	合計	無回答	p値
16. 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集する								
1年生	0(0%)	10(37.0%)	7(25.9%)	7(25.9%)	3(11.1%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	0(0%)	7(31.8%)	9(40.9%)	6(27.3%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	7(46.7%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	11(55.0%)	8(40.0%)	20	0	
17. 情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出する								
1年生	5(18.5%)	5(18.5%)	7(25.9%)	8(29.6%)	2(7.4%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	0(0%)	6(27.3%)	11(50.0%)	5(22.7%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	6(40.0%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	9(45.0%)	10(50.0%)	20	0	
18. 対象者及びチームメンバーと協力しながら実施可能な看護計画を立案する								
1年生	8(29.6%)	2(7.4%)	5(18.5%)	7(25.9%)	5(18.5%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	1(4.5%)	3(13.6%)	16(72.7%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	6(40.0%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	9(45.0%)	10(50.0%)	20	0	
19. 根拠に基づいた個別的な看護を計画する								
1年生	7(25.9%)	4(14.8%)	6(22.2%)	9(33.3%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	3(13.6%)	4(18.2%)	14(63.6%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	7(46.7%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.3%)	10(52.6%)	8(42.1%)	19	1	
20. 計画した看護を対象者の反応を捉えながら実施する								
1年生	7(25.9%)	3(11.1%)	6(22.2%)	8(29.6%)	3(11.1%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	2(9.1%)	7(31.8%)	11(50.0%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	7(46.7%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(42.1%)	11(57.9%)	19	1	
21. 計画した看護を安全・安楽・自立に留意し実施する								
1年生	1(3.7%)	7(25.9%)	7(25.9%)	10(37.0%)	2(7.4%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	2(9.1%)	2(9.1%)	16(72.7%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	7(46.7%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	8(40.0%)	11(55.0%)	20	0	
22. 看護援助技術を対象者の状態に合わせて適切に実施する								
1年生	1(3.7%)	5(18.5%)	9(33.3%)	8(29.6%)	4(14.8%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	1(4.5%)	4(18.2%)	17(77.3%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	3(20.0%)	8(53.3%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	10(50.0%)	10(50.0%)	20	0	
23. 予測しない状況の変化について指導者又はスタッフに報告する								
1年生	5(18.5%)	6(22.2%)	2(7.4%)	7(25.9%)	7(25.9%)	27	1	0.002
2年生	0(0%)	1(4.5%)	1(4.5%)	11(50.0%)	9(40.9%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	4(26.7%)	11(73.3%)	15	0	
4年生	1	0(0%)	1(5.0%)	3(15.0%)	15(75.0%)	20	0	
24. 実施した看護と対象者の反応を記録する								
1年生	2(7.4%)	6(22.2%)	5(18.5%)	10(37.0%)	4(14.8%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	1(4.5%)	3(13.6%)	14(63.6%)	4(18.2%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(33.3%)	10(66.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(25.0%)	15(75.0%)	20	0	
25. 予測した成果と照らし合わせて実施した看護の結果を評価する								
1年生	4(14.8%)	6(22.2%)	7(25.9%)	9(33.3%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	1(4.5%)	7(31.8%)	13(59.1%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	8(53.3%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	8(40.0%)	11(55.0%)	20	0	
26. 評価に基づいて計画の修正をする								
1年生	8(29.6%)	6(22.2%)	6(22.2%)	6(22.2%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	1(4.5%)	2(9.1%)	7(31.8%)	10(45.5%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	5(33.3%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	10(50.0%)	9(45.0%)	20	0	

χ²乗検定、P<0.05を有意差ありとした。無回答は欠損値として扱った。

表3 Ⅲ群：健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力

	まだ学習していない	知識としてわかっている	学内演習で実施できる	指導の下で実施できる	少しの助言で自立して実施できる	合計	無回答	p値
27. 生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を理解する								
1年生	9(33.3%)	7(26.9%)	6(22.2%)	4(14.8%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	5(22.7%)	5(22.7%)	9(40.9%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	9(60.0%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	0(0%)	9(45.0%)	10(50.0%)	20	0	
28. 環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解する								
1年生	6(22.2%)	7(26.9%)	6(22.2%)	5(18.5%)	3(11.1%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	4(18.2%)	3(13.6%)	13(59.1%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	4(26.7%)	10(66.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	0(0%)	5(25.0%)	14(70.0%)	20	0	
29. 健康増進と健康教育のために必要な資源を理解する								
1年生	7(26.9%)	8(30.8%)	5(19.2%)	5(19.2%)	1(3.8%)	26	2	0.001
2年生	2(9.1%)	5(22.7%)	3(13.6%)	9(40.9%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	10(66.7%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	1(5.0%)	2(10.0%)	0(0%)	9(45.0%)	8(40.0%)	20	0	
30. 対象者及び家族に合わせて必要な保健指導を実施する								
1年生	14(51.9%)	6(22.2%)	2(7.4%)	5(18.5%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	5(22.7%)	10(45.5%)	7(31.8%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	3(20.0%)	10(66.7%)	1(6.7%)	15	0	
4年生	1(5.0%)	2(10.0%)	1(5.0%)	9(45.0%)	7(35.0%)	20	0	
31. 妊娠、出産、育児に関わる援助の方法を理解する								
1年生	19(73.1%)	3(11.5%)	2(7.7%)	2(7.7%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	0(0%)	7(31.8%)	10(45.5%)	5(22.7%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	7(35.0%)	1(5.0%)	5(25.0%)	7(35.0%)	20	0	
32. 急激な変化状態（周手術期や急激な病状の変化、救命処置を必要としている等）にある人の病態と治療について理解する								
1年生	19(70.4%)	3(11.1%)	2(7.4%)	2(7.4%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	1(4.5%)	12(54.5%)	6(27.3%)	3(13.6%)	0(0%)	22	0	
3年生	1(0.0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	6(40.0%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	1(5.0%)	3(15.0%)	1(5.0%)	8(40.0%)	7(35.0%)	20	0	
33. 急激な変化状態にある人に治療が及ぼす影響について理解する								
1年生	19(70.4%)	4(14.8%)	0(0%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	7(31.8%)	4(18.2%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	7(46.7%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	1(5.3%)	5(26.3%)	0(0%)	6(31.6%)	7(36.8%)	19	1	
34. 対象者の健康状態や治療を踏まえ、看護の優先順位を理解する								
1年生	11(40.7%)	10(37.0%)	2(7.4%)	4(14.8%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	4(18.2%)	7(31.8%)	11(50.0%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	7(46.7%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	7(35.0%)	10(50.0%)	20	0	
35. 状態の急激な変化に備え、基本的な救急救命処置の方法を理解する								
1年生	19(70.4%)	5(18.5%)	1(3.7%)	2(7.4%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	4(18.2%)	8(36.4%)	7(31.8%)	3(13.6%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	3(20.0%)	7(46.7%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	6(30.0%)	0(0%)	8(40.0%)	6(30.0%)	20	0	
36. 状態の変化に対処することを理解し、病状の変化について迅速に報告する								
1年生	15(55.6%)	8(29.6%)	1(3.7%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	3(13.6%)	7(31.8%)	7(31.8%)	3(13.6%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	9(60.0%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	0(0%)	8(40.0%)	10(50.0%)	20	0	
37. 合併症予防の療養生活を支援する								
1年生	20(74.1%)	4(14.8%)	0(0%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	10(47.6%)	6(28.6%)	5(23.8%)	0(0%)	21	1	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	9(60.0%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	0(0%)	10(50.0%)	8(40.0%)	20	0	
38. 日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援する								
1年生	15(55.6%)	6(22.2%)	3(11.1%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	10(45.5%)	9(40.9%)	3(13.6%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	2(10.0%)	8(40.0%)	7(35.0%)	20	0	
39. 対象者の心理を理解し、状況を受けとめられるように支援する								
1年生	10(37.0%)	6(22.2%)	6(22.2%)	5(18.5%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	6(27.3%)	7(31.8%)	7(31.8%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	1(6.7%)	7(46.7%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	1(5.0%)	5(25.0%)	12(60.0%)	20	0	
40. 慢性的経過をたどる人の病態と治療について理解する								
1年生	20(74.1%)	3(11.1%)	0(0%)	4(14.8%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	13(59.1%)	5(22.7%)	4(18.2%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	6(30.0%)	10(50.0%)	20	0	
41. 慢性的経過をたどる人に治療が及ぼす影響について理解する								
1年生	22(81.5%)	0(0%)	1(3.7%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	15(68.2%)	3(13.6%)	4(18.2%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	8(53.3%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	5(25.0%)	11(55.0%)	20	0	
42. 対象者及び家族が健康障害を受容していく過程を支援する								
1年生	20(74.1%)	3(11.1%)	0(0%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	7(31.8%)	4(18.2%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	9(60.0%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.5%)	1(5.3%)	8(42.1%)	8(42.1%)	19	1	
43. 必要な治療計画を生活の中に取り入れられるように支援する（患者教育）								
1年生	16(59.3%)	5(18.5%)	2(7.4%)	4(14.8%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	10(45.5%)	6(27.3%)	6(27.3%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	2(10.0%)	4(20.0%)	13(65.0%)	20	0	
44. 必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解する								
1年生	18(66.7%)	6(22.2%)	0(0%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	12(54.5%)	7(31.8%)	2(9.1%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	7(46.7%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	1(5.0%)	9(45.0%)	6(30.0%)	20	0	
45. 急性増悪の予防に向けて継続的に観察する								
1年生	20(74.1%)	2(7.4%)	2(7.4%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	6(27.3%)	5(22.7%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	9(60.0%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	1(5.0%)	9(45.0%)	8(40.0%)	20	0	
46. 慢性的な健康障害を有しながらの生活の質（QOL）向上に向けて支援する								
1年生	16(59.3%)	4(14.8%)	4(14.8%)	2(7.4%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	10(45.5%)	5(22.7%)	7(31.8%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	7(46.7%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	2(10.0%)	9(45.0%)	8(40.0%)	20	0	
47. 死の受容過程を理解し、その人らしく過ごせる支援方法を理解する								
1年生	15(55.6%)	8(29.6%)	0(0%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	3(13.6%)	13(59.1%)	3(13.6%)	2(9.1%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	3(20.0%)	2(13.3%)	2(13.3%)	7(46.7%)	1(6.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	5(25.0%)	0(0%)	7(35.0%)	8(40.0%)	20	0	
48. 終末期にある人の治療と苦痛を理解し、緩和方法を理解する								
1年生	18(66.7%)	4(14.8%)	0(0%)	3(11.1%)	2(7.4%)	27	1	0.000
2年生	7(31.8%)	9(40.9%)	5(22.7%)	1(4.5%)	0(0%)	22	0	
3年生	5(33.3%)	1(6.7%)	1(6.7%)	6(40.0%)	2(13.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	6(30.0%)	0(0%)	5(25.0%)	9(45.0%)	20	0	
49. 看取りをする家族をチームで支援することの重要性を理解する								
1年生	17(63.0%)	6(22.2%)	0(0%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	7(31.8%)	9(40.9%)	5(22.7%)	1(4.5%)	0(0%)	22	0	
3年生	3(20.0%)	1(6.7%)	2(13.3%)	6(40.0%)	3(20.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	7(35.0%)	9(45.0%)	20	0	

χ 二乗検定、P<0.05を有意差ありとした。無回答は欠損値として扱った。

表4 IV群：ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力

	まだ学習して いない	知識としてわ かる	学内演習で実 施できる	指導の下で実 施できる	少しの助言で 自立して実施 できる	合計	無回答	p値
50. 看護職の役割と機能を理解する								
1年生	5(19.2%)	12(46.2%)	5(19.2%)	4(15.4%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	0(0%)	7(31.8%)	6(27.3%)	6(27.3%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	10(66.7%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	6(30.0%)	10(50.0%)	20	0	
51. 看護師としての自らの役割と機能を理解する								
1年生	4(14.8%)	11(40.7%)	6(22.2%)	5(18.5%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	7(31.8%)	5(22.7%)	7(31.8%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	6(30.0%)	11(55.0%)	20	0	
52. 看護師は法的範囲に従って仕事を他者（看護補助者）に委任することを理解する								
1年生	14(53.8%)	5(19.2%)	2(7.7%)	5(19.2%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	2(9.1%)	8(36.4%)	3(13.6%)	7(31.8%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	3(20.0%)	0(0%)	6(40.0%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	9(45.0%)	8(40.0%)	20	0	
53. 看護師が委任した仕事について様々な側面から他者を支援することを理解する								
1年生	11(40.7%)	11(40.7%)	3(11.1%)	2(7.4%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	3(13.6%)	9(40.9%)	2(9.1%)	6(27.3%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	1(6.7%)	3(20.0%)	0(0%)	7(46.7%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	1(5.0%)	7(35.0%)	8(40.0%)	20	0	
54. 仕事を部分的に他者に委任する場合においても、自らに説明義務や責任があることを理解する								
1年生	10(37.0%)	11(40.7%)	2(7.4%)	3(11.1%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	9(40.9%)	2(9.1%)	9(40.9%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	1(6.7%)	3(20.0%)	1(6.7%)	6(40.0%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	0(0%)	5(25.0%)	11(55.0%)	20	0	
55. 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解する								
1年生	7(25.9%)	13(48.1%)	1(3.7%)	6(22.2%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	9(40.9%)	4(18.2%)	6(27.3%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	2(13.3%)	2(13.3%)	0(0%)	6(40.0%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.0%)	0(0%)	4(20.0%)	14(70.0%)	20	0	
56. リスク・マネジメントの方法について理解する								
1年生	15(55.6%)	8(29.6%)	1(3.7%)	3(11.1%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	4(18.2%)	3(13.6%)	4(18.2%)	22	0	
3年生	2(13.3%)	2(13.3%)	1(6.7%)	9(60.0%)	1(6.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(21.1%)	0(0%)	7(36.8%)	8(42.1%)	19	1	
57. 治療薬の安全な管理について理解する								
1年生	20(76.9%)	4(15.4%)	1(3.8%)	1(3.8%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	1(4.5%)	13(59.1%)	4(18.2%)	3(13.6%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	0(0%)	5(33.3%)	1(6.7%)	9(60.0%)	0(0%)	15	0	
4年生	1(5.3%)	3(15.8%)	2(10.5%)	6(31.6%)	7(36.8%)	19	1	
58. 感染防止の手順を遵守する								
1年生	4(14.8%)	7(25.9%)	5(18.5%)	5(18.5%)	6(22.2%)	27	1	0.001
2年生	0(0%)	4(18.2%)	5(22.7%)	8(36.4%)	5(22.7%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(53.3%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(40.0%)	12(60.0%)	20	0	
59. 関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する								
1年生	12(46.2%)	9(34.6%)	3(11.5%)	2(7.7%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	2(9.1%)	7(31.8%)	2(9.1%)	22	0	
3年生	0(0%)	2(13.3%)	1(6.7%)	5(33.3%)	7(46.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	0(0%)	11(55.0%)	8(40.0%)	20	0	
60. 保健・医療・福祉チームにおける看護及び他職種機能・役割を理解する								
1年生	3(11.1%)	14(51.9%)	4(14.8%)	6(22.2%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	11(50.0%)	2(9.1%)	5(22.7%)	4(18.2%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	7(46.7%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	1(5.0%)	5(25.0%)	11(55.0%)	20	0	
61. 対象者をとりまく保健・医療・福祉従事者間の協働の必要性について理解する								
1年生	4(14.8%)	13(48.1%)	5(18.5%)	4(14.8%)	1(3.7%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	8(36.4%)	3(13.6%)	7(31.8%)	4(18.2%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	4(26.7%)	9(60.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	2(10.5%)	0(0%)	5(25.0%)	13(65.0%)	20	0	
62. 対象者をとりまくチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行なう								
1年生	3(11.1%)	7(25.9%)	7(25.9%)	9(33.3%)	1(3.7%)	27	1	0.001
2年生	0(0%)	7(31.8%)	3(13.6%)	7(31.8%)	5(22.7%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	1(5.0%)	1(5.0%)	6(30.0%)	12(60.0%)	20	0	
63. 対象者に関するケアについての意思決定は、チームメンバーとともに行う								
1年生	7(26.9%)	8(30.8%)	5(19.2%)	5(19.2%)	1(3.8%)	26	2	0.000
2年生	1(4.5%)	5(22.7%)	8(36.4%)	5(22.7%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	1(7.1%)	0(0%)	2(14.3%)	7(50.0%)	4(28.6%)	14	1	
4年生	0(0%)	0(0%)	1(5.0%)	6(30.0%)	13(65.0%)	20	0	
64. チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討する								
1年生	9(33.3%)	8(29.6%)	6(22.2%)	4(14.8%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	5(22.7%)	9(40.9%)	7(31.8%)	1(4.5%)	22	0	
3年生	1(6.7%)	1(6.7%)	1(6.7%)	6(40.0%)	6(40.0%)	15	0	
4年生	0(0%)	0(0%)	2(10.5%)	7(36.8%)	10(52.6%)	19	1	
65. 看護を実践する場における組織の機能と役割について理解する								
1年生	8(29.6%)	12(44.4%)	2(7.4%)	5(18.5%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	8(36.4%)	8(36.4%)	2(9.1%)	4(18.2%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	1(6.7%)	5(33.3%)	8(53.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	7(35.0%)	10(50.0%)	20	0	
66. 保健・医療・福祉システムと看護の役割を理解する								
1年生	5(18.5%)	12(44.4%)	6(22.2%)	4(14.8%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	10(45.5%)	6(27.3%)	3(13.6%)	3(13.6%)	22	0	
3年生	0(0%)	0(0%)	2(13.3%)	8(53.3%)	5(33.3%)	15	0	
4年生	0(0%)	3(15.0%)	0(0%)	6(30.0%)	11(55.0%)	20	0	
67. 国際的観点から医療・看護の役割を理解する								
1年生	13(50.0%)	8(30.8%)	2(7.7%)	3(11.5%)	0(0%)	26	2	0.000
2年生	8(36.4%)	9(40.9%)	2(9.1%)	3(13.6%)	0(0%)	22	0	
3年生	4(26.7%)	3(20.0%)	3(20.0%)	5(33.3%)	0(0%)	15	0	
4年生	1(5.3%)	7(36.8%)	0(0%)	5(26.3%)	6(31.6%)	19	1	
68. 保健・医療・福祉の動向と課題を理解する								
1年生	8(29.6%)	12(44.4%)	4(14.8%)	2(7.4%)	1(3.7%)	27	1	0.001
2年生	1(4.8%)	14(66.7%)	2(9.5%)	4(19.0%)	0(0%)	21	1	
3年生	1(6.7%)	3(20.0%)	2(13.3%)	6(40.0%)	3(20.0%)	15	0	
4年生	2(10.5%)	4(21.1%)	1(5.3%)	5(26.3%)	7(36.8%)	19	1	
69. 様々な場における保健・医療・福祉の連携について理解する								
1年生	7(25.9%)	12(44.4%)	2(7.4%)	6(22.2%)	0(0%)	27	1	0.000
2年生	0(0%)	15(68.2%)	5(22.7%)	2(9.1%)	0(0%)	22	0	
3年生	0(0%)	1(6.7%)	3(20.0%)	7(46.7%)	4(26.7%)	15	0	
4年生	0(0%)	4(20.0%)	1(5.0%)	5(25.0%)	10(50.0%)	20	0	

χ²乗検定、P<0.05を有意差ありとした。無回答は欠損値として扱った。

では「まだ学習していない (26.9%)」「知識としてわかる (30.8%)」の回答が多く、2年生では、「学内演習で実施できる (36.4%)」、3年生では、「指導の下で実施できる (50.0%)」、4年生になると「少しの助言で自立して実施できる (65.0%)」という回答であった。

第Ⅴ群専門職者として研鑽し続ける基本的能力(表5)も、第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群と学年別の回答は同様の結果であった。看護実践における自らの課題に取り組む重要性などについては、3,4年生では「少しの助言で自立して実施できる」と回答した割合がどの項目も増加していた。

3. 4年生の卒業時の到達度の実態について

4年生の回答では、73項目のうち、60項目で80%の学生が「指導の下で実施できる」「少しの助言で自立して実施できる」と回答していた。到達度として「指導の下で実施できる」「少しの助言で自立して実施できる」という回答が80%以下だった項目は、第Ⅲ群で8項目、第Ⅳ群で5項目であった。

第Ⅲ群での到達度が低かった項目は、「31. 妊娠、出産、育児に関わる援助の方法を理解する」が60%、次いで「33. 急激な変化状態にある人に治療が及ぼす影響について理解する」が68.4%、「35. 状態の急激な変化に備え、基本的な救急救命処置の

方法を理解する」と「48. 終末期にある人の治療と苦痛を理解し、緩和方法を理解する」が70%、「32. 急激な変化状態(周手術期や急激な病状の変化、救命処置を必要としている等)にある人の病態と治療について理解する」「38. 日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援する」「44. 必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解する」「47. 死の受容過程を理解し、その人らしく過ごせる支援方法を理解する」が75%であった。

第Ⅳ群で到達度が低かった項目は、「67. 国際的観点から医療・看護の役割を理解する」が57.9%、次いで、「57. 治療薬の安全な管理について理解する」が68.4%、「53. 看護師が委任した仕事について様々な側面から他者を支援することを理解する」「69. 様々な場における保健・医療・福祉の連携について理解する」が75%、「56. リスク・マネジメントの方法について理解する」が78.9%であった。

V. 考察

「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(以下、卒業時到達度)」のほぼすべての項目で、カリキュラム進行に伴い学生が段階的に目標を達成していた。これはカリキュラムポリシーに則った教育とその成果によるものだと考えられる。学生の自

表5 V群：専門職者として研鑽し続ける基本能力

	まだ学習していない	知識としてわかる	学内演習で実施できる	指導の下で実施できる	少しの助言で自立して実施できる	合計	無回答	p値
70. 看護実践における自らの課題に取り組むことの重要性を理解する								
1年生	6 (22.2%)	8 (29.6%)	4 (14.8%)	8 (29.6%)	1 (3.7%)	27	1	0.000
2年生	0 (0%)	10 (45.5%)	3 (13.6%)	6 (27.3%)	3 (13.6%)	22	0	
3年生	0 (0%)	0 (0%)	2 (13.3%)	5 (33.3%)	8 (53.3%)	15	0	
4年生	0 (0%)	1 (5.0%)	0 (0%)	5 (25.0%)	14 (70.0%)	20	0	
71. 継続的に自分の能力の維持・向上に努める								
1年生	5 (18.5%)	8 (29.6%)	1 (3.7%)	7 (25.9%)	6 (22.2%)	27	1	0.000
2年生	0 (0%)	7 (31.8%)	5 (22.7%)	7 (31.8%)	3 (13.6%)	22	0	
3年生	0 (0%)	0 (0%)	2 (13.3%)	5 (33.3%)	8 (53.3%)	15	0	
4年生	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (30.0%)	14 (70.0%)	20	0	
72. 看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性を理解する								
1年生	5 (18.5%)	9 (33.3%)	3 (11.1%)	5 (18.5%)	5 (18.5%)	27	1	0.000
2年生	2 (9.1%)	6 (27.3%)	6 (27.3%)	6 (27.3%)	2 (9.1%)	22	0	
3年生	0 (0%)	0 (0%)	2 (13.3%)	5 (33.3%)	8 (53.3%)	15	0	
4年生	0 (0%)	1 (5.0%)	0 (0%)	4 (20.0%)	15 (75.0%)	20	0	
73. 看護実践に研究成果を活用することの重要性を理解する								
1年生	10 (37.0%)	8 (29.6%)	2 (7.4%)	5 (18.5%)	2 (7.4%)	27	1	0.000
2年生	8 (36.4%)	5 (22.7%)	5 (22.7%)	2 (9.1%)	2 (9.1%)	22	0	
3年生	1 (6.7%)	1 (6.7%)	0 (0%)	6 (40.0%)	7 (46.7%)	15	0	
4年生	0 (0%)	1 (5.0%)	0 (0%)	5 (25.0%)	14 (70.0%)	20	0	

χ²乗検定、P<0.05を有意差ありとした。無回答は欠損値として扱った。

己評価の結果から、本学の看護師教育の特徴を考察し、今後の教育に向けた課題・その取り組みについて検討する。

各学年の到達度は、第Ⅰ群で「対象者の選択権、自己決定を尊重する」、「組織の倫理規定、行動規範に従って行動する」、「対人技法を用いて、対象者と援助的なコミュニケーションをとる」が学年間で有意差を認めなかった。これは、ヒューマンサービス論や人間関係とコミュニケーションなど、1年次早期に全学科で実施される科目が影響していると考えられた。また、高学年は実習等で深い学びを得たことで、これらの能力の修得の難しさを実感し自己評価が低下する²⁾ ことなどが影響していると考えられた。この結果から、縦断的調査をしていくうえでは学年ごとの到達目標を明確にし、評価していく必要が示唆された。

第Ⅲ群・第Ⅳ群では「指導の下で・少しの助言で自立して実施できる」が80%以下の項目が13項目確認された。これらの項目は、全国の看護系大学を除く看護師養成所に対する卒業時到達目標の調査結果⁶⁾ と一致していた。急激な病状の変化、終末期に関する項目であり、受け持ち患者の状態により学びに差が生じたことが考えられ、学びの共有が重要であることが示唆された。一方、同調査と比較して、第Ⅴ群は実施できる割合が高い傾向にあり、学士課程における教育の特徴が表れていると考えられた。

特に、第Ⅳ群の「国際的な観点からの医療・看護の役割、保健・医療・福祉の動向と課題を理解する」は低い評価であったが、この国際化が低い傾向になるのは、他の看護系大学における調査^{3) 7)} と同様であった。本学の新たなカリキュラムでは「国際看護交流演習」が加わり、より国際的な観点を教授できる科目が増える。しかし選択科目であるため、各科目でも国際的な観点を意識した教育を実践する必要があることが示された。

4年生における卒業時到達度は、73項目中60項目で80%以上の学生が「指導のもとで実施できる」「少しの助言で自立して実施できる」と自己評価していた。4年生はコロナ禍の影響から1,2年次は実習時間の短縮や実習内容の制限があった。そのような中でも、講義・演習・実習を通して、基本的な能力を身につけたことが明らかになった。これは、コロ

ナ禍を経て模擬電子カルテ導入やシミュレーション活用などにより学内での学習効果が高まったことなど、効果的な教育の結果であると考えられる。

本研究の限界と課題を以下に述べる。本調査における回収率は低く、全体の状況を反映しているとは言い難い。また横断的調査であり、学年ごとの学生の傾向・教育内容の違いなどバイアスが多く、それらが結果に影響している可能性がある。そのため今後も引き続き調査を継続し、教育の評価・改善につなげていく。

また、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会⁸⁾ では、看護教育モデル・コア・カリキュラムが策定されている。モデル・コア・カリキュラムは看護系のすべての大学が学士課程における看護師養成のための教育において共通して取り組むべきコアとなる内容を抽出し、各大学におけるカリキュラム作成の参考となるよう学習目標を列挙したものである。今後はモデル・コア・カリキュラムの内容についても検討しながら、最終的な学修目標である学生のコンピテンシーの獲得につながるよう本学のカリキュラムに反映させていくことも課題である。

謝辞

本調査にご協力いただいた学生ならびに、看護学科教務委員会など大学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

文献

- 1) 日本看護系大学協議会. (2022). 大学で看護を学ぼう. https://www.janpu.or.jp/download/pdf/janpu_kango_print.pdf (2024.8.10アクセス)
- 2) 伊藤弘子, 川村晃右, 松本賢哉, 他. 本学看護学生の学士教育課程におけるコアコンピテンシーの到達度に関する調査. 京都橘大学研究紀要 2019; 45: 123-132.
- 3) 中尾友美, 清水昌美, 本田由美, 他. 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標の実態と学年間の比較. 千里金蘭大学紀要 2020; 17: 77-83.
- 4) 荒川尚子, 江尻晴美, 齋藤夕美, 他. 看護学生

の教育目標達成度に対する自己評価の調査報告. 看護教育研究学会誌 2020 ; 12(2) : 1-10.

- 5) 厚生労働省. (2016). 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc2280&dataType=1&pageNo=1 (2024.8.20アクセス)
- 6) 佐々木幾美, 雑賀美智子, 岩本郁子, 他. 厚生労働科学研究 看護実践能力の育成に資する効果的な教育方法に関する研究 2018. https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2016/163011/201620030A_upload/201620030A0003.pdf (2024.8.20アクセス)

- 7) 細田泰子, 長畑多代, 田中京子, 他. 学士課程における看護実践能力に対する学生の到達状況の認識. 大阪府立大学看護学雑誌 2018 ; 24(1) : 99-109.

- 8) 文部科学省. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 2017. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～. https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf (2024.8.10アクセス)